

令和6年度 都立小川高等学校 学校経営報告

今年度の取組目標と方策

下線部＝全教員による必須取組事項 ★重点を置いて実施した項目

今年度の教育活動の目標	重点目標への取組と自己評価	次年度以降の課題と対応策 (★重点課題)
1 学習指導 【目標1】 組織的な補習・講習の充実により、基礎学力の定着、伸長を行うことで進路選択の幅を広げ、希望進路の実現を達成する。 【目標2】 継続的な課題配信等、自主学習、家庭学習習慣の定着を図るための方法を検討し、実施する。	【方策1★】 学習サポート委員会」の設置により、分析会を通じ教科会で講座と内容を検討し、精査できた。 【方策2】 授業の課題配信は、観点別評価と連動させ進められているが全ての教科で実施できていない。学年の取組は個別対応に留まった。 【方策3】 キャレルデスクを購入し、自習スペースの整備に着手できた。	★ 分析会の計画、教科会設定を年間通じて計画的に行うことで、実態把握を基にした学習支援を組織する。中間層の講習内容と手立てを改善し、外部講師による定期的な講習をバージョンアップする。
【目標3】 教科会を中心とした「教科マネジメント」の構築を行い、学力の一層の定着を図る。観点別評価の適切な実施とPDCA サイクルによる指導と評価の一体化を図る	【方策4★】 観点別評価が定着し、指導と評価の一体化の理解が進んだ。授業の工夫や改善についての校内研修は実施できなかったが、教科会での検討には着手することができた。	★ 観点別評価の目的を再度教員に明確にし、前年度の生徒の実態と振り返りを基に、観点別評価の見直しを図り、より生徒の学習につながる精度の高い評価基準を策定する。
【目標4】 資格・検定試験受験の機会を学習の一環として確保し、学力向上の取組につなげる。	【方策5★】 英検については、都の予算支援を受け、1,2年校内全員受検の実施ができた。英検に向け、英語科が補習や授業内容を共通に検討して実施できた。その結果、予想より多くの合格者を出すことができた。	★ 生徒の受検への意識付けを早い段階で行い、授業、学習コンテンツでの継続的な学習、教員のフォロー体制の見直しを行い、合格者を増やす。
【目標5】 司書教諭、学校図書館専門員を中心に、教科と連携して言語活動の活性化を図る。	【方策6】 図書館運営委員会が計画し、国語科が全クラス授業内でビブリオバトルに取り組んだ。読書活動を推進したが、読書の推進は伸び悩み、さらなる具体策が必要である。	○読書の推進への工夫を、教員目線だけでなく、生徒委員会を活用して改善を図るとともに、ビブリオバトルの国語科授業での取組を継続する。
【目標6】 「生徒による授業評価」の結果を分析し、授業に反映させる。授業力向上のために指導内容と方法の検証と改善・工夫等を行う。	【方策7★】 教員間の授業見学は全員が実施できているが、見学内容の活かし方をグループ等でできるよう工夫する。初任者、若手の研究授業について参加者が増加したが、参加者を交えた協議会を実施するまでには至れなかった。 【方策8】 特に若手から一部の中堅教員が積極的に研修を活用できた。予備校等のオンライン研修の受講促進は予算を確保して促し、10人の教員が活用した。活用者は有用性を感じており研鑽に活かした。	★ 校内での授業見学は期間を設けず実施する形態に変更する。特に授業力の高い教員や、ICT活用などが進んでいる教員の紹介をし、見学を促す。 ○若手を中心とした、近隣の都立高校との授業見学交流、協議会を実施したいと考えている。 ○引き続き教員のオンライン受講の予算化をする。
【目標7】 個別最適な学び、協働的な学びを促進し、生徒がICTを活用しながら自ら学習を調整して学ぶことができるようにする。	【方策9★】 一人1台端末の授業での活用は70%となり、グループ活動や問題配信、小テストなど観点別評価と連動した活用を工夫するようになった。教科会での共有が生かされている。	★ 年度当初の端末設定や不具合の解消を継続し、生徒が常時使用できる状態を維持すること、観点の評価につながる活用について、教科会での意見交換や研修会の設定を試みる。

【目標 8】擬試験等の結果を教科会で検討し、到達目標を明確化した上で、教科指導の改善に努める。	【方策 10★】教科会を月一回定着させ、各種テストや模試を通じて、課題把握と改善を促し、結果の提出を促したが十分な分析までは一部の教科に留まった。	★教科会の月一回開催は次年度も継続する。毎回の教科会のテーマを明確にし、テーマに対し、全教員が検討することで目標に対するベクトルを合わせる。
【目標 9】「総合的な探究の時間」により、生徒自身が探究的なものの見方、考え方を身に付ける。主体的に課題を設定し解決する学習を通して、自己の在り方・生き方を考える資質・能力を育成する。併せて、異文化体験等を通して、グローバルなものの見方を養う。	【方策 11★】3 年実施計画 1 年目で、様々なチャレンジを行えた。アンケート等で、全般的には良い手ごたえであったが、前向きな改善提案に対して、策を講じ、ブラッシュアップする。 【方策 12】進路主任の尽力もあり、探究での大学教授等の有効活用が定着しつつあり、生徒の伸長もみられ、効果的に活用できている。 【方策 13】発表する機会が定着し、外部人材から評価を受ける場を設けたことで、探究の内容の制度が上がった。主体的に考える力の育成につながっている。 【方策 14】国際交流クラブを立ち上げ、JET 青年を活用した交流機会の提供、1 学年全員と JET とのランチミーティングの実施など、担当の尽力により興味関心を高める活動が進んだ。	★探究計画のベースができているので、検証を基にバージョンアップしていく。1 年全員による複数回の大学訪問、外部講師を活用した探究発表への講評、探究の同窓生活用に手ごたえがあったので、さらに高大連携や、同窓会等の活用を改善・工夫し、生徒のキャリア教育を充実させる。 ○国際交流プロジェクトを立ち上げ、海外学校間交流推進校の指定により、オンラインや訪問による交流体験、留学生による講話などを進め、グローバル教育を進める。
2 生活指導 【目標 10】基本的生活習慣の確立 規律正しい生活習慣や規範意識の向上のために、集団生活のルールやマナー等について教職員全員で共通理解をし、指導する。	【方策 15】学年中心で遅刻指導を実施してきたが、目標値の 1 か月あたりクラス 1 名の遅刻者の目標に至らなかった。遅刻者が同じ生徒である場合、背景を把握するなど指導の工夫が必要である。 【方策 16★】生徒保健部が、自発的な気づきを促す服装指導の統一見解を提示したが、教員によっては指導の迷いが生じたので、目線合わせと教職員全員での声掛けを継続して実践する。	○遅刻指導の在り方を、生徒の課題ごとに検討する。継続対象者は生徒支援員会などと連携し、生活習慣以外の課題などからアプローチする。 ★全校一斉に確認する機会を設け、チェックを行うとともに、TPO に応じた服装の在り方の重要性について講話する機会を都度設定し意識付けを行う。
【目標 11】自転車通学が多くを占める本校の実態に即した指導を検討するとともに、取組の充実とヘルメット着用率の向上に向け具体策を工夫する。	【方策 17】生徒保健部が、苦情から得た情報を基に、現地に出向き、町田警察等と連携した指導を実施した。ヘルメット着用は、様々な指導を講じたが、着用率向上の策に対して、効果的な方法を見出すことが困難であった。	○自転車通学者のヘルメット着用について、自転車通学の要件に「ヘルメットの所持」を条件として設けた。危険箇所は生徒保健部と町田警察の連携により未然防止をはかる。保護者会で着用の理解を求める。
【目標 12】情報モラルについて、学校教育の多様な場面で考えさせる取組を行う。そのことにより、規範意識の醸成と自己と他者を尊重する態度を育成する。	【方策 18★】「小川高校 SNS ルール」の周知・徹底などルールやマナーについて、生徒主体の取組まで実施ができなかったが、地域の小学校と連携し、SNS の使い方について高校生の視点でアドバイスを行う取組を行い、小学校の発表に協力した。	★生徒会からの SNS ルールの周知徹底を検討させ、自分事として考えさせる機会をつくる。SNS の危険性について、入学当初から事例を挙げた講話を実施。人間関係の構築にもふれ適切な使用を促す。
【目標 13】生徒の問題行動に関して早期発見と早期対応に努め、生徒が安心して学校生活を送れる環境を維持する。	【方策 19】教員にいじめの定義を共通理解させ、案件が発生した際には速やかな報告と「いじめ対策委員会」の招集により、組織的な早期対応策を講じることが定着した。	○いじめ防止の取組は、毎年教職員に「いじめの定義」を確認させ、組織で早期に対応する意識を醸成する。

【目標 14】清掃・美化 小川高校の環境美化の意識を高めると共に、近隣の清掃美化や花壇の整備等に取り組み、地域貢献の姿勢を醸成する。	【方策 20】担当教員の指導により美化委員を中心に、備品の廃棄や説明会前の清掃など、活動が推進された。ボランティア部による花壇整備等は継続して行っているが、地域との活動など内容を増やし、自己有用感をさらに育成したい。	○生徒の定期的な清掃以外に、美化委員と、ボランティア部との連携による校内外の美化に関する取組の工夫を検討させるなど生徒自身が美化意識を高めるための場を設ける。
3 特別活動・部活動 【目標 15】生徒会を中心にした主体的な取組を支援し学校行事を充実させる。	【方策 21★】近年の生徒会の充実により、自発的・主体的に機能するようになっている。生徒会と行事委員の相乗効果からか、生徒が自校の活動を自発的に創り上げようとする意識が高まりを見せている。行事担当や生徒会担当の生徒指導が功を奏している。	★本校の良さである「自律の精神」を大切にしたい、生徒会の取組を組織として継続できるよう指導の工夫を行う。 ○各委員会の活動の活性化をはかり、自己有用感を育成する。
【目標 16】特別活動や部活動を通して、日本の伝統文化を理解し、発信する取り組みを積極的に行う。	【方策 23】部活動（茶道部、図書委員会の和紙本制作）を、継続して取り組んでいることは日本文化を紹介する機会として評価できる。新たな活動を模索することも検討したい。	○部活動や委員会の取組の成果を校外でも披露し、評価を受けることでの成長を促す。日本の文化を継承、紹介する機会を国際交流の場で設ける。
【目標 17】部活動に所属する意義を理解し部活動に所属することで、継続する力を醸成し、達成感や自己肯定感、自他尊重の精神を養う。学習と部活動が互いに刺激となり、生徒の成長を促せる指導を行う	【方策 24】部活動により関わり方が異なっているが、特に活動が盛んである部活動については、方針について保護者・生徒と顧問で共通理解を持つことを継続する。 【方策 25★】部活動ガイドラインをもとに、活動を実施できている。文化・スポーツ等特別推薦導入1年目として、学習活動と部活動の相乗効果を検証したい。 【方策 26】近隣中学校との交流を行う部が増えていることは、地域貢献として継続したい。中学校側から部活動地域移行の相談を受けているので情報共有をしながら進める。	★部活動と学習には継続する意義がある。両社の継続が成り立ってこそ、相乗効果が生まれて、協働することで人間性を高めるといった、技術向上だけでなく部活動の意義を、都度伝えていく。 ○外部指導員などの専門家の活用により、技術が向上する楽しさを実感させる指導を行う。 ○近隣中学との交流を図り、地域を大切にする姿勢を醸成し、中学校の地域移行への協力をできる範囲で進める。
4 健康づくり 【目標 18】健康の保持増進について、学校と家庭、地域関係者が連携し、生徒が健康で安心・安全に学校生活を送れるよう環境を整えるとともに、生徒が自主的に健康維持ができるよう指導の工夫を行う。	【方策 27】保健だよりの定期的発行は時期の課題を踏まえ実施できた。外部人材を活用した講話は、薬物乱用、救急救命、性に関する教育を実施し、生徒への正しい知識の定着や意識啓発、行動変容を図った。アンケートからも自身の生き方や健康に対する意識を高めている様子が見えた。	○外部人材活用の講話を生徒の実態に応じて講師を選定し、学年の課題に応じた実施ができるよう整理する。正しい知識、発達段階に応じた意識啓発や行動変容を促す。
【目標 19】授業や体育祭、マラソン大会等の行事、部活動等、教育活動全体で基礎体力の向上を図る。	【方策 28】保健体育、家庭科では授業内で取り扱い実施できている。特に体育では授業のトレーニングや柔軟性を高める運動の継続を教科全員で実施し体力向上につなげた。 【方策 29】体力テストのデジタル化に伴い、事前・事後指導を実施したいが、今回はシステムを設定、使用する段階に留まった。	○現在、保健体育科で実施している授業時のトレーニングの継続を図る。また、統一体力テストがデジタル化されたので、自身の体力の課題を把握させ、取り組みを考えさせる授業等の実践を検討する。

【目標 20】教育相談体制として「生徒支援委員会」を中心に全校での教育相談体制を確立する。組織的・計画的に取り組むことで、自他の生命を尊重し、安定的に心身の状態を維持しながら学校生活を送れるように支援する。	【方策 30★】生徒支援委員会を 10 回開催、月ごとに対応継続、見守り等を検討し、全校で情報共有して対応できた。スクールカウンセラーやエリアネットワークを有効活用することで、発達課題のある生徒に対する具体的、継続的対応について助言を受けられ、支援につなげることができた。 【方策 31】「命の安全教育」に関し、都のリーフレットの活用、町田市男女平等推進センターと連携して講演が実施でき、人権を尊重する態度の育成につなげた。	★生徒支援委員会の運営、検討の方法が定着した。この方法を継続しながら、在校生の具体的支援を図る。スクールカウンセラー 2 名体制になるため、カウンセラー室の整備と、役割や連携を強化し、早期の対応が可能になるよう体制を整える。 ○包括的性教育を推進し、性的健康、安全で尊重しあえる人間関係、多様性の尊重を醸成できる講演会を学年の課題ごとに実施する。
5 進路指導 【目標 21】生徒の実態や新大学入試、共通テスト等に対応した、進路ガイダンスのプログラムを充実させる。	【方策 32】進路ガイダンスは、計画的なプログラムを進路部が策定し、外部人材を有効活用し、適切な時期に生徒に情報を教授できる内容にと工夫ができた。 【方策 33】定期的な拡大進路部会を学年との連携の場と位置付け、各進路行事の打ち合わせ、課題の共有などを積極的に行えた。	○生徒に対する進路ガイダンスの充実を 1 年間で計画的体系的に図れたので、これらを継続しつつ、教員にも進路情報を提供し、生徒に対して適切な進路指導、面談指導ができるように説明会、講演会を実施する。
【目標 22】新大学入試、新学習指導要領完全実施に対応した教員の進学指導力と教科指導力を高め、相乗的に生徒に還元して、生徒の進路希望を妥協させず実現ができる指導、支援を行う。	【方策 34★】進路部と学習サポート委員会で模試データ等の進路情報を分析した。今年度は全教員での模試分析会を実施できた。また、模試も生徒自身の自己分析が可能なものを新たに導入したが、教員の理解が十分でなく、うまく活用につなげられなかった。進路部が外部機関等からの情報提供の機会を増加させた。 【方策 35】外部人材の活用により、総合型選抜入試受験者に対する講演等を実施し、小論文・志望理由書等の指導を充実させることができた。入試制度や方法については教員側の知識を充実させる研修を増やしたい。 【方策 36】今年度は、公務員受験者が多く、公務員試験指導の充実を図れ複数の合格者を出すことができた。	★模試データの分析会の実施を複数回実施、学習サポート委員会での模試分析と学校としての取組の検討を定着させ、教科会に適切に情報提供し、授業や講習等に活かすことを定着させる。 ○総合型選抜に関わる教員研修、模試の結果を活かした面談方法の情報提供を業者に依頼して実施する。
【目標 23】生徒一人ひとりの学習状況や進路希望状況を踏まえた 3 年間を見据えた進路面談の充実を図る。生徒、保護者とともに将来について考え、進路に対する意識を喚起させることで「第一志望」の進路実現を支援する。	【方策 37★】担任団として、1 年から 3 年まで計画的に二者面談、三者面談等を実施しているよりは、個別に対応している実態がある。 学年で段階に応じて統一した目的で、二者、三者面談を実施できると生徒、保護者との情報共有の制度が上がり、進路選択につながると考えるが、その段階に至っていない。	★二者面談および三者面談の回数、時期を学校として提示し、計画的な面談内容を学年で統一して検討し、学年が同様のスタンスで学習指導や進路指導に当たれるようにする。また、2 年は三者面談を 1 回は必ず実施し、進路に関する共通理解を図っていく。
6 募集・広報活動 【目標 24】従来の募集活動の振り返りを行い、本校に関する情報を的確に・迅速に、かつ興味を持ってもらえるよう発信する。	【方策 38】支援センター特別指定校の取組である幅広い学力層の学習支援を中心にし、生徒の声を反映させた学校案内のリニューアルを行った結果、中学生からは理解しやすいとの意見をいただいた。さらなる工夫を進める。	○募集活動は、引き続き教務部担当を中心に生徒をより生かす取組を充実させる。母校訪問、出前授業など地域の中学校へ出向き、本校の理解を深める。

本校の認知を高めるとともに、本校の理解を深めてもらうことで、第一志望の受験生を確保する。	【方策 39】パワーポイントの改変により特色を理解しやすく、また「X」の運用により、日常的な発信を行うことで関心を持たせるようにした。 【方策 40】八王子、立川地区主催の説明会に積極的に参加した結果、塾等の勧めで本校受験者が増えた。	○情報発信プロジェクトを立ち上げ、ホームページや「X」の運用をより組織的に適時に素早く対応できる体制をつくる。
【目標 25】外部説明会、学校説明会・学校見学会等の機会を積極的に利用し、組織的・計画的に広報活動を推進し、参加者を増やすことで、受験生に本校への理解を深めてもらう。	【方策 41★】教務部募集対策担当を設定したことで、相談・提案を逐次行いながら良い方向を見いだせたり、新たなチャレンジができたことため、募集活動自体が充実した。 【方策 42】生徒主体の説明会を継続していく中で、生徒自身の工夫や丁寧な対応が見られ、本校の生徒の良さや頑張りを直接的に感じてもらえる機会とできた。	★昨年と同様、募集対策担当の設定を活かし、課題の整理と在校生の受検地域からのニーズをつかみ、効果的で幅を広げる募集活動を検討する。八王子、日野周辺の中学校訪問など地域の模索をおこなう。 ○本校の生徒の良さを活かし、生徒が運営する見学会を目指す。
【目標 26】文化・スポーツ等特別推薦では、技能の高さはもとより、本校で継続して学業や部活動に励み、リーダーシップを発揮し、本校の活性化や他の生徒の模範となる生徒の育成につながる受験生確保に尽力する。	【方策 43】文化・スポーツ等特別推薦の実施を行う際に、その趣旨を十分に理解させ、体験活動に参加させたりしたことで、入学後は技能の面はもとより、取組姿勢など良い効果をもたらした。学業面でも問題なく、今後も丁寧な生徒の募集に努める。	○引き続き、文化・スポーツ特別推薦を活用する野球、男女バレーの地域の生徒発掘に努め、本校の体験活動に参加させ、小川高校の部活動の実態から、受検を検討してもらえるような部の運営を目指す。 ○本制度を活用した生徒の学業面の経過を確認し、武両道を目指す。
7 地域交流等 【目標 27】「地域探究推進事業アソシエイト校」として、取組を充実させる。地域との連携により、主体的に課題を設定し解決する資質・能力を育成することで、地域貢献意識を高める。	【方策 44】生徒と自治体防災委員とが連携した防災訓練を実施し、「共助」に対する理解を深められたが、雨天が2年続いたため予定のプログラムが実施できなく目標達成に至らなかった。 【方策 45】生徒の地域行事の参加は部活動の参加が増加した。近隣の小学校と SNS の利用に関して一緒に考える取り組みができ、小学校の道德地区発表会で紹介できた。中学校との連携も部活動をはじめ機会を増やせた。	○自治体との防災訓練をさらに実態に即した訓練になるようブラッシュアップを図りたい。 ○防災教育推進委員会の編成を変更し、より有用な訓練につながる工夫を検討し、実施できるよう計画する。 ○地域と連携した実践校をさらに増やして、地域とつながりを持った小川高校の取組を推進したい。
8 学校経営・組織体 【目標 28】組織的な学校経営を推進するために、全教員の情報共有を徹底する。また、業務の効率化を推進したり、都の制度を活用を周知したりすることでライフ・ワーク・バランスの推進を図る。	【方策 46★】「小川ポータル」を作成し、情報の一元化、共有化を図り効率的な仕事の進め方を工夫した。このことは働き方改革につながった。都の正二については、経営企画室や副校長と連携し、都度周知を図り活用を促した。育休取得者4名。前倒し任用活用2名。	★「小川ポータル」の活用をさらに工夫し、情報の一元化を継続するとともに、職員室内の掲示板やホワイトボードの活用の工夫を検討し、職員室内の情報共有を推進する。

【目標 29】体罰、セクシャルハラスメント、個人情報保護等の服務事故ゼロの校内体制を構築、維持するとともに、校内研修の実施や、企画調整会議等のレジュメによる教職員の意識啓発、事故未然防止を徹底する。	【方策 47★】企画調整会議、職員会議のレジュメに、具体的な事例や状況を取り上げ、冒頭に注意を促す文を掲載して啓発を行った。 【方策 48】OJT ガイドラインを配布、自己申告面接等で示して、職層に応じた目標設定をすることで、理解につなげた。課題の明確化は会議等で共有してきたが意識の差は生じている。 主幹教諭、主任教諭各 1 名が合格し、計画的な人材育成を図る道筋をつくれた。 【方策 49★】服務事故防止研修、経営企画室職員による事務手続等の研修を確実に実施し。今年度は事故ゼロであった。	★引き続き、未然防止策を多岐にわたり徹底する。啓発については会議のレジュメでの啓発および、教職員から不適切な事象が見受けられたときに迅速に報告が上がるよう周知徹底する。 ○教職員の様々に中心的な役割を与えることで課題解決や取組の推進に当たらせ、人材発掘を行うとともに育成を図る。 ★対策を継続し、服務事故ゼロとする。
【目標 30】学校運営連絡協議会の機能を活用し、保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に積極的に反映させてより良い学校経営を目指す。	【方策 50】前年度の学校評価アンケート回収率が著しく悪く、検証につながらなかった反省により、今年度は生徒・保護者・教員の回収率を高める手立てを（二次元コード、呼びかけ等）行い回収率が上がったことで課題が明確になった。	○学校評価アンケートの回収方法を工夫し回収率向上に努め、課題を明確にする。 ○前年度の学校評価アンケートで課題となった点について改善策と結果を生徒や保護者に周知し、アンケートの意義を伝える。
【目標 31】図書館運営委員会が中心となり学校図書館専門員の専門性を生かし、利用の促進を工夫し、生徒が本に親しむ環境を一層推進する。	【方策 51】司書教諭と学校図書館専門員の連携がよく、活用しやすい図書館を目指す努力は行っていた。また、国語科が教科として図書館の活用を行った。赤本を設置し、貸借が進んだが、その他の書籍の興味関心が伸びなかった。 【方策 52】図書貸借システム施行校としての経験をもとに、全都的な取組として機能する準備はできており活用の推進を目指し取り組もうとしてきた。	○教科の活用を増やし、書籍への意識や活用について推進する。 ○校内での図書の紹介や地域、行政等と連携するなど、生徒委員会のモチベーションを高め自発的に活動を活性化させられるようにする。 また、本への興味関心を生徒から発信できる、または高める工夫を行える環境づくりを行う。
【目標 32】経営企画室職員が、経営参画の意識を持ち特に、学習活動に係る予算を中心に必要な品目を重点的に予算配分し、計画的・効果的に執行することで予算の有効活用を進める。	【方策 53】経営企画室が組織的に機能し、特に経理担当が執行に関して努力をし、センター執行分の落差金や執行の工夫により物品等の充実が図れた。センター執行率は 56%であった。	○引き続き、経理担当を中心に執行を早め、落差金を活かしたり、無駄な個所を省いて予算を生み出しながら、教育活動の充実を図る。

【目標 33】施設・設備・備品を適正に管理し、有効に活用する。 【目標 34】授業料・学校徴収金について経営企画室と教員が連携し、収納及び執行管理を行う。また、公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行う。	【方策 54】施設・設備の点検を日常から行い、こまめに修繕等に当たっていた。特に工事が多くあったため、生徒の安全確保を十分に行い、無事に工事を実施することができた。多くの放置されていた修繕箇所が改善できた。 【方策 55】学校徴収金については、担当者が適切に納入状況を把握し、未納入者には早めで計画的な督促を行い、未納ゼロを達成できた。 【方策 56】就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度周知を適時行い、申請書類の確実な回収に努めた。	○校舎、施設が老朽化しているので、引き続きこまめな点検を実施し、生徒の安全を確保する。 ○学校徴収金の未納を防ぐため、計画的な周知や状況把握、督促の手立てを講じて、引き続き未納者ゼロとする。 ○生徒の支援に係る制度周知を怠らない。 ○文書、書類の管理徹底とチェックを行い、事故の未然防止に努める。
--	---	--

IV数値目標

令和 6 年度 数値目標	令和 6 年度結果
1 学習指導 ①長期休業中講習 60 講座以上 ②チャイム着席の励行 100% ③家庭学習時間 1 日 30 分以上の生徒 70%以上 ④英検準会場実施 1 回・英検 2 級・準 2 級合格者数 80 人以上。漢字検定等各種検定受験の促進 ⑤相互授業見学 年間 3 回以上（教科内外）100% ⑥「教材や教え方の工夫がされている」90%以上 ⑦思考力・判断力・表現力を育てる授業の実践 90%以上 ⑧授業満足度 90%以上 ⑨「総合的な探究の時間」は「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」80%以上 ⑩「自分の将来を考えるようになった」80%以上 ⑪月 2 冊以上本を読む 20%以上 ⑫他校との交流会 1 回以上 ⑬ビブリオバトルの実施	①53 講座（精査を行った） ②84% ③56% ④英検準会場実施（1 月） 英検 2 級・準 2 級合格者 75 人 英検 1・準 1 級合格者 2 人 ⑤100% ⑥75% ⑦79% ⑧79% ⑨81% ⑩86% ⑪16% ⑫1 回（成瀬） ⑬国語授業予選・大会出場
2 生活指導 ①遅刻者数 クラス月平均 1.5 人以下 ②「学校の規則を守っている」100% ③「時間の管理ができている」95% ④「挨拶ができている」95%以上 ⑤「情報モラルを理解している」	①2.0 人（3 学年平均） ②97% ③84% ④87% ⑤96%
3 特別活動・部活動 ①「部活動加入率」80% ②「学校行事を通して、精神的に成長したり、協調性や団結力が育まれている」95% ③「自発的・自治的な活動が展開されている」90%以上 ④体罰ゼロ	①77% ②91% ③90% ④ゼロ
4 健康づくり ①生徒支援委員会開催 月 1 回 ②特別支援に係る研修 年 1 回 ③センター校との連携 1 回以上 ④「生徒の悩みに適切に対応している」90% ⑤「いじめをなくすために積極的に取り組んでいる」100%	①年間 10 回 ②なし ③1 回 ④86% ⑤86%

5 進路指導 ①1年二者面談2回 ②2年二者面談2回三者面談1回 ③3年二者面談2回三者面談1回 ④進路希望達成率90%以上 ⑤「進路関係の資料や進路講話などは充実している」95%以上 ⑥「進路指導は1学年から計画的に行われている」90%以上 ⑦進路に係る分析会・校内研修3回以上 ⑧共通テスト受験者100名以上	※学年内で統一されていない ①二者面談2回 ②二者面談2回三者面談1回 ③二者面談2回三者面談1回 ④89% ⑤86% ⑥87% ⑦5回（全体2回、委員会3回） ⑧89名
6 募集・広報活動 ①ホームページの更新 ②学力検査応募倍率 1.40 倍 ③学校見学会・説明会中学生参加者 3000 名 ④塾訪問を実施。塾説明会の実施	①163 回 ②1.21 倍 ③3078 名 ④塾訪問実施、郵送（校長） 塾説明会なし
7 地域交流等 ①「地域との連携に協力的」95%	①100%
8 学校運営・組織体制 ①サービス事故ゼロ 給与等支給明細電子化 7 月末までに 100% ②センター執行率 60% ③学校徴収金未納者 0 人	①ゼロ 7 月末まで 70% ②センター執行率 56.5% ③学校徴収金未納者 0 人